

# 働く体験を通して 将来に役立てよう！

就業を取り巻く環境が変化する中、目的や意識が希薄なまま進学する若者、進路・職業の選択を先

送りにする若者が増えています。そこで、生徒が働く上で必要な知識や技能、働く人の思いなどに



衛生面に配慮した食品加工



園児の気持ちを考えた保育体験



お客さんの立場に立った本の陳列



自分の未来へと  
つなぐ体験

深町 祐太さん（中央中2年）

職場体験学習を通して分かったことは、仕事をするということは大変だということです。仕事をするためには、その前にたくさんの資格をとる必要があります。いろいろと努力をしなければなりません。

仕事は苦勞することも多いけれど、働く喜びや自立する喜びなど、生きていくための楽しみも多いことを学びました。たとえば、あいさつの大切さです。あいさつは職場とか関係なく、日常生活でもいつも使います。あいさつをすることで、人と人がふれあうことができます。

また、きつい仕事でも、やり通すことで、お客さんの喜ばれる姿をみることができます。このお客さんの喜ばれる姿から、自分自身が充実感をもち、生きていくという実感をもつことができます。

自分の未来へとつなぐためのすばらしい体験ができました。



一生懸命に  
働いたからこそ  
知った味わい

笠原 愛理さん（西溪中2年）

私は、職場体験学習で、仕事の大変さが分かりました。特に、こんなに立ち仕事をしたのは、生まれて初めてのことで、こんなにきついものだとは思っていませんでした。

友達と一緒に同じ職場で、ホール担当の私は、お客さんに一番接する仕事でした。ジュニアガイドをやっているおかげで、お客さんとうまく接することができたのでうれしかったです。友達は、厨房で料理を作っていて、楽しそうだなと思っていましたが、「大変だ」と言っていました。同じ職場でも、いろいろな役割があり、大変さもそれぞれ違うようです。

楽しかったというよりおいしかったのは、毎日のお昼のまかないでした。この「おいしさ」は、一生懸命に働いたからこそ味わうことができたのです。



思いやる気持ち  
を学び、勉強に  
なった2日間

秋次 亜耶さん（東部中2年）

体験学習をして、「思いやる気持ち」を学びました。

雑誌が倒れていたら次に見る人のことを考えてきれいに並べたり、すみずみまでお掃除したりしました。大変だけど、すごく大切なことだということが分かりました。

私は今まで、これほどまでに人と接したことがなかったのですごく緊張して、お冷やを出す度にドキドキしました。でも、だんだん慣れてきて、きちんとお客様の顔を見て、お冷やを出せるようになりました。もともと人見知りでしたが、人とうまく接することができなかつたけど、少しは克服できたと思います。

皆さん、たくさん話しかけてくださり、ありがとうございました。楽しくてすごく早く、勉強になった5日間でした。

ふれることを通して、学ぶことの意義を理解し、主体的に自己の進路を選択・決定しようという意欲を身に付けさせることを目的に、市内の3中学校では毎年、職場体験学習に取り組んでいます。平成20年度は、8月18～22日の夏休みに実施。2年生217人が、市内を中心とした69か所の事業所

等の協力を得て、働くという貴重な体験をしました。それぞれの中学校では、人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力という4つの力をはぐくむため、年間活動計画を立て、職場体験学習やこの事前・事後指導のあり方について工夫・改善を重ねています。

定例教育委員会のお知らせ 1月18日に教育委員会を開き、議題の「教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価の学識経験者の選任」について、協議し承認しました。

次回は2月12日(木)13時30分第3委員会室（市役所2階）で開催します。傍聴は自由です。

■問い合わせ 教育委員会教育統括室（市役所4階） ☎75-3450